

「世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人」を目指して

スタディ・ホーム

～「令和5年度さいたま市学習状況調査」の結果より～

「令和5年度さいたま市学習状況調査」の結果についてお知らせします。

御家庭等において、子どもたちの日々の学習や生活の状況を振り返り、よりよい学習・生活習慣等について話し合う際に、「学力向上ポートフォリオ(児童生徒版)」と併せて、本リーフレットをお役立てください。

児童生徒・保護者向けリーフレット (中学校版)



全国の
調査結果

国立教育政策研究所

検索



さいたま市
学習状況調査

さいたま市立教育研究所

検索

「令和5年度さいたま市学習状況調査」調査の概要・結果について

<実施日> 令和5年12月14日(木)～令和6年1月25日(木)

<対象> 小1から中3の市立学校全児童生徒

<内容> ①学力に関する調査

小3・4：国語、算数

小5・6、中1・2：国語、算数・数学、社会、理科

※中3については、「第3回さいたま市学力検査」をもって充てる。

②生活習慣等に関する調査

小1～中3 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する内容

学力・生活習慣等に関する調査をMEXCBT(文部科学省CBTシステム)で実施

メリット①：学習場面に即した動画問題を取り上げることができる。

メリット②：解答後すぐに正答・誤答を確認することができる。

メリット③：結果データを、期間中いつでも振り返ることができる。

学力に関する調査の結果

各教科の平均正答率(%)【参考値】

学年	国語	算数・数学	社会	理科
小3	59.7	72.1	—	—
小4	65.5	63.2	—	—
小5	64.4	64.4	72.9	53.2
小6	67.4	62.8	74.1	44.6
中1	75.7	61.0	60.5	68.9
中2	72.3	53.9	58.4	54.8
中3	55.7	55.3	56.1	46.5

※中3は平均点

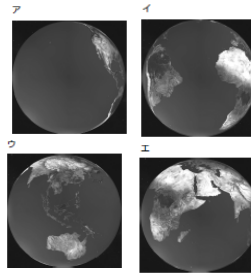
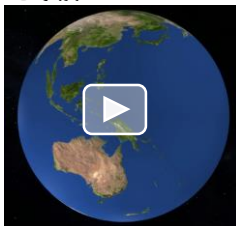
学習場面に即した動画問題(例)

—MEXCBTで出題した問題から—

中学校1年「社会」①(5)より抜粋

【動画問題】さとしさんは、地球儀を実際に回転させながら、世界の位置関係を調べています。次の地球儀で表された画像の反対に位置する画像として正しいものを、下のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。
(実際に地球儀が回転する動画を使い、最も適切なものを答えましょう。)

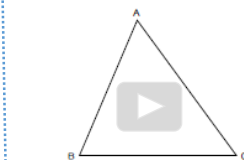
地球儀



中学校2年「数学」⑦より抜粋

文部科学省委託事業「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」でも同様の問題が取り上げられています。

【動画問題】動画を見て、下の(問)に答えなさい。
次の図の△ABCにおいて、下の①、②、③の手順で直線APを作図します。



作図の方法
【手順①】頂点Aを中心として、辺BCと2点で交わる円をかき、その円と辺BCとの交点を点D、Eとする。
【手順②】点D、Eをそれぞれ中心として、互いに交わるように等しい半径の円をかき、その交点の1つを点Pとする。
【手順③】頂点Aと点Pを通る直線をひく。

(問) この方法によって作図した直線APについて、上の△ABCにおいて成り立つことからを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。
ア 直線APは、頂点Aと辺BCの中点を通る直線である。
イ 直線APは、辺BCの垂直二等分線である。
ウ 直線APは、∠BACの二等分線である。
エ 直線APは、頂点Aを通り辺BCに垂直な直線である。

文部科学省では、「保護者の働きかけがある児童生徒の学力は高い傾向がある」と分析されています。その例の一つに、地域や社会の出来事など家庭での会話が多いことをあげています。

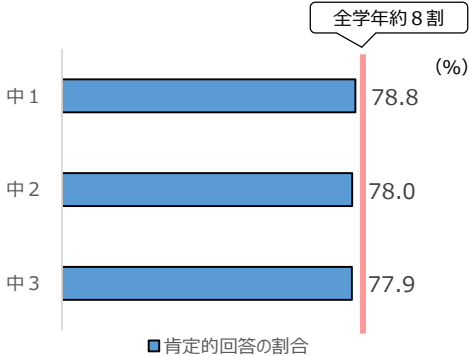
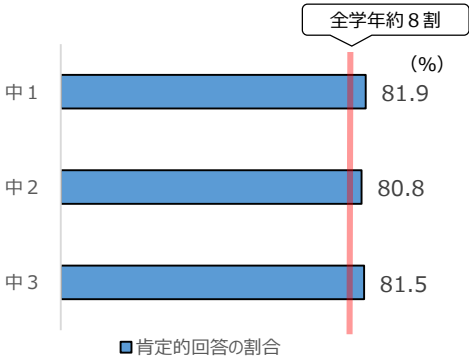
地域や社会の出来事を学ぶ代表的な教科は「社会」です。「社会」の調査問題と生活習慣等に関する調査の結果から、確認していきましょう。

キーワードは「社会」との関わり

さいたま市の生徒は、「社会」に関する質問にどう答えているのだろう。

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。



令和5年度
さいたま市学習状況調査

「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」や「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定的回答の割合は、どの学年も約8割と高い傾向にあり、本市の児童生徒は、地域や社会への関心や愛着があることが伺えます。また、小学校でも同様の傾向がみられます。

中学校社会科では、「世界の諸地域」の学習において地球規模の課題等を主題として取り上げた学習を充実させることが大切にされています。「世界の諸地域」を知り、より自分事として、世界規模の出来事を捉えていくことを願って、さいたま市学習状況調査「社会」でも「世界の諸地域」の問題を出題しています。

中学2年生で出題された「世界の諸地域」に関する問題（一部）

2 あすかさんたちの班では、世界の諸地域について、それぞれ調べ学習を行いました。次の資料を見て、あとの問いに答えなさい。

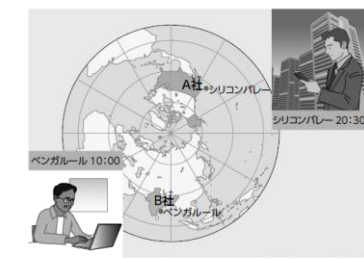
(2) あすかさんとなつきさんは、次のインド出身のイシャーンさんの話に興味をもち、次の資料3～5を集めました。あすかさんとなつきさんの二人の会話文を読み、資料の読み取りとして誤っているものを、文章中のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。



私はインドの出身ですが、以前はアメリカのシリコンバレーにあるICT（情報技術）関連の企業に勤めていました。今はインドに帰国し、ベンガルールでインターネット上のショッピングサイトを運営する会社を経営しています。

イシャーンさん（仮名）

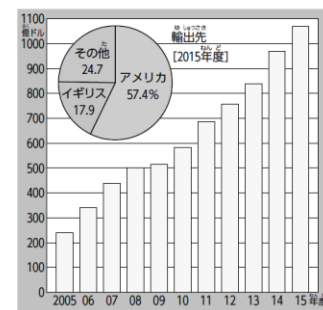
資料3 コールセンターの仕組み



※A社はアメリカの本社で、B社はインドにあるA社の支社である。

会話文

資料4 インドのICT関連輸出額



資料5 インドの紙幣（10ルピー）

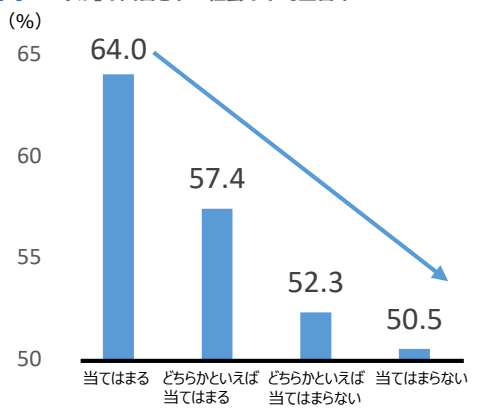


（写真：PIXTA）

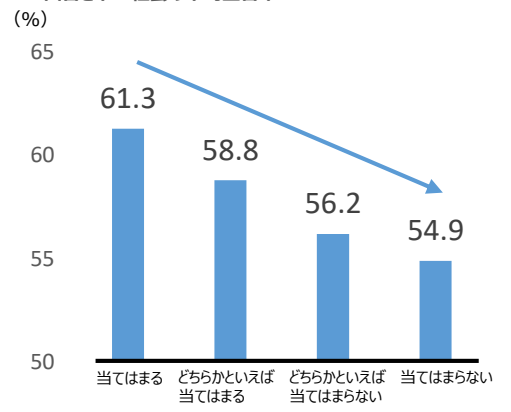
2 正答率
2年：56.8%

あすかさん：イシャーンさんのように、なぜICT産業で活躍するインドの人が多いのだろう。
 なつきさん：まず、インドの人のアメリカへの留学者数は、年々増加傾向にあるよね。留学をしてICTを勉強する人が多いみたいだよ。
 あすかさん：なるほど。インドは多言語の国だから、共通の言語として英語が日常的に使われていて、留学も言葉の部分では問題が少なそうだね。
 なつきさん：あとは、アメリカとインドの位置関係も影響しているみたい。昼と夜が反対になる位置関係だから、24時間の電話対応が可能のようだよ。
 あすかさん：インドとアメリカは結びつきが深いだね。だからICT関連の輸出は、インドからアメリカに、たくさん輸出されているのだね。
 なつきさん：他にもインドの人々が、ICT産業で活躍している理由がありそうだね。調べてみよう。

「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の回答と中2社会の平均正答率



「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」の回答と中2社会の平均正答率



中学校2年生における「地域」や「社会」に関する質問の回答と「社会」の平均正答率を見ると、「地域」や「社会」に関わろうとしている生徒の方が「社会」の平均正答率が高い傾向にあることが分ります。中学校1年生でも同様の傾向がありました。

地域や社会の出来事や、地域や社会にどのように貢献できるかなどについて、家庭で話題にしてみませんか。

おわりに...

生徒の皆さんは、学校から配布されるポートフォリオ（児童生徒版）に生活習慣等の改善に向けた取組や教科ごとの目標を記入しましょう。保護者の方は、お子さんの取組や目標に対する励ましのコメントの記入をぜひお願いします。

